

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 27 年 6 月 19 日現在

機関番号：12606

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2013～2014

課題番号：25770060

研究課題名(和文) 環境における表現の可能性-偶発的な動きが作り出すイメージフェノメノン-

研究課題名(英文) "Possibility of the expression in the environment"-The image phenomenon that accidental movement creates.-

研究代表者

臼井 英之 (Usui, Hideyuki)

東京藝術大学・大学院美術研究科・研究員

研究者番号：70644574

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,100,000円

研究成果の概要(和文)：「環境における表現の可能性」をテーマとし、25年度は、瀬戸内国際芸術祭2013において、海洋環境を利用し、海に巨大なあぶくを出現させる作品を発表した。26年度は、文化庁&東京藝術大学主催の「平成26年度次代の文化を創造する新進芸術家育成事業」に新進芸術家として参加し、水田環境を利用した作品を制作した。前年度の海洋環境における作品制作の経験を踏まえ、装置の改良点や、設置・撤去の効率化、メンテナンス性について検証した。作品は、写真および映像に記録し、広く一般に公開した。また、今後は、素材として水以外の物質も利用することを考え、どこまで表現方法やテーマを展開させることが可能かを検証した。

研究成果の概要(英文)：I showed a work of art in Setouchi Toriennale 2013 with the theme of "possibility of the expression in the environment." I made a huge bubble appear in the sea in this work. I participated in "Educational project for emerging artists to lead culture in the next generation 2014" sponsored by Agency for Cultural Affairs & Tokyo University of the Arts as an emerging artist and I showed a work of art which uses rice field. Based on the work in marine environment in the year before, I verified the points of improvement for machinery, method for improving efficiency of machinery installation, removal and maintenance. I recorded the works on film and video and the works have been opened to the public on my website. In addition, I verified possibility of development in expression and theme by using materials except water.

研究分野：芸術表現

キーワード：環境芸術

1. 研究開始当初の背景

私は美術作品を制作する上で、映像表現をそのベースに置きながら、偶発的な動きを作品に取り入れている。2003年に、『1,000』と題したCGアニメーション作品を制作した。1,000個以上のドットを、CGにより1つずつアニメーションさせた平面作品である。3分程度のループ映像で、混沌とした状態から整然へと向かう様、逆に整然から混沌へと向かう様が表現されている。ドットの数が多いことにより、100%自分の想像どおりにアニメーションさせることは困難であり、実際に表出された映像を確認して初めて、現象及び全体像を把握できることになる。この作品を通して、現象に対して自分の想像は60%しか及ばないということを感じた。それと同時に、偶発的に生まれる新たな現象の存在も知ることとなり、想像の及ばない残りの40%の存在を強く意識することとなった。その後、東京藝術大学大学院で、空間造形第一研究室に在籍し、「平面」から「空間」を意識した表現へと展開していくこととなる。2007年には、『40%』と題し、暗闇のコンテナ内部にストロボ光を照射し、2万5千個のダイヤモンドカットした透明のスーパーボールを勢いよく発射させる作品を制作した。明滅する光がボールの動きを切り抜き、連続した静止画のように知覚される。コンテナに伝わる振動はリアルタイムの情報であるため、そこに視覚とのタイムラグが生じる。ボールのきは天体の明滅のように美しく、宇宙の動きそのものを見ているかのようなものである。偶発性を取り入れるためには、動くモノが平面上にあるより、空間にある方が、私の作品においては効果的であった。それは外乱(ノイズ)ともいえる要素が大きいことにある。そして2013年、これまでの「平面」「空間」における表現から、「環境」における表現に移行することにより、従来とは異なった表現を展開していく。具体的には、海洋環境や水田環境等、水のある環境を利用した作品を制作することとなる。

2. 研究の目的

様々な自然現象が、我々の心を惹きつけてきた。四季の変化や天体の動き、潮の満ち引き等、我々を取り巻く環境が、我々の生活に影響を与えてきた。本研究においては、それらの自然環境を模倣しながらも、自然現象を映像現象に置換することを試みる。海洋環境等、これまでとは桁違いの壮大なスケールでの映像表現により、美術表現の新たな可能性を切り開き、美術作品における「動き」の概念に一石を投じることになる。自然に調和する不自然の創出を目指すことで、今までにない新たな表現で、人々の心を揺り動かし、アートを通して自然と人との関係性を明確にし、「環境」における表現の可能性を追求す

ることが、本研究の目的である。また、東日本大震災を経験し、自然との共生のあり方を再考すべき時期に、アートを通じて自然と人とを繋ぐという意義もある。

3. 研究の方法

平成25年度

海洋環境における作品制作を主たる研究として位置づけた。

平成25年4月1日～8月31日の期間、小豆島アーティストインレジデンスにて作品制作を行い、瀬戸内国際芸術祭2013において、インスタレーション作品を発表した。海面に巨大なあぶくが出現する作品で、海底に沈めたエアータンクに、陸地に設置したエアークOMPRESSORからチューブを通して空気を送り込み、タンク内の空気量が増えることで重力と浮力のバランスが乱れ、タンクが回転し、海面にあぶくが出現する仕組みとなっている。様々な天気や、時間帯のもとで作品の撮影を行い、写真及び映像として記録を残した。作品撤去後も、映像を分析し、泡の大きさ、海面に浮上し噴出するタイミング、波紋の広がり方、雨や光の取り込み方等を検証した。



瀬戸内国際芸術祭2013 空気噴出装置

平成26年度

前年度の海洋環境における作品制作の経験をもとにした、水田環境を利用した作品制作を、主たる研究として位置づけた。

福島県喜多方市の水田及び休耕田を利用した作品を制作した。前年度における海洋環境での作品制作のノウハウを活かし、田んぼの土中に空気噴出装置を沈め、水面にあぶくと波紋を出現させる作品である。

まずは、地元の農家の方たちの協力を仰ぎ、現地調査を行い、ロケーション、水の出し入れの方法等を検証し、十分な準備をしたうえで、作品制作に取りかかった。作品は写真及び映像に記録し、後日検証をおこなった。周囲の環境が暗くなった時間帯にあぶくをライトアップさせる実験も行い、また、空気噴出装置の小型化、メンテナンス性のために必要な改善点を検証した。



土の中に装置を埋めている様子
2014年制作 福島県喜多方市

4. 研究成果

平成 25 年度

①瀬戸内国際芸術祭 2013 に出品

会期：春（3/20～4/21）

夏（7/20～9/1）

秋（10/5～11/4）計 108 日間

（うち夏、秋会期に出品）

場所：香川県小豆島神浦

瀬戸内国際芸術祭 2013 において、小豆島の神浦という海に、壮大なスケールのインスタレーション作品を発表した。海面に巨大なあぶくが出現する作品で、巨大な泡は波紋へとカタチを変え、海面はまるで動く枯山水のようになる。揺らぐ海面に陽の光が反射することにより、周囲の気候、環境、時間の変化を取り込んだ作品となった。この展示場所は、国指定天然記念物でもある皇子神社の麓に位置する海辺で、また背後の2つの山を借景とするロケーションで、環境における表現の可能性を追求する上で最も適した場所であった。瀬戸内国際芸術祭の来場者数は、芸術祭全体で100万人を超え、小豆島のみでは約19万人が来場し、文化、芸術、経済と様々なプラスの効果が現れ、アートの魅力を津々浦々に浸透させることができる芸術祭となった。私の作品の反響は非常に大きく、予めガイドブックで調べて訪ねて来てくださる方も多く、来場者から直に、感想を聞くことができた。また、制作を通じて、作家である私自身と地元の方との強い絆も生まれ、自然環境を美しく保つ地元の方々の努力を強く感じる事ができた。

作品映像の分析により、空気噴出装置の改良点や、設置や撤去の効率化、メンテナンス性等を検証することができ、次年度の作品制作に活かすことができた。

また、平成25年度にWebサイトを開設し、作品の写真及び映像を掲載し、作品を広く一般に公開した。



瀬戸内国際芸術祭 2013
海面からあぶくが出現した瞬間の様子

②学会発表

環境芸術学会第14回大会「環境と芸術と都市の未来」において、瀬戸内国際芸術祭での活動報告をベースに、口頭発表及びパネル展示を行った。学会において、作品に対する多様な角度からの意見を聞くことができ、今後の研究につなげることができた。

平成 26 年度

① 水田環境における作品制作（その1）

福島県喜多方市の水田及び休耕田を利用し、作品を制作した。田んぼの土中に空気噴出装置を沈め、水面にあぶくと波紋を出現させるインスタレーション作品で、前年度における海洋環境での作品制作の経験をもとに、空気噴出装置の改良をすすめた。日本の原風景である田んぼにおける表現は、海洋環境とは異なる趣を呈し、周囲の山麓の景色を取り込んだ美しい作品となった。水の出し入れが可能な場所での作品は、海洋環境に比べ設置や撤去、メンテナンスが容易であり、実用性の高いプランとなり、今後、装置の小型化を進め、建築環境へのインストールも行えることが実証できた。また、水以外の素材も併せて使用するという新たなアイデアを生み出し、素材を変えることで、今後の作品テーマや表現の展開につなげるきっかけとなった。水田の作品は、写真および映像に記録し、Webサイトで広く一般に公開した。



福島県喜多方市 水田の様子

② 文化庁&東京藝術大学主催「平成26年度次代の文化を創造する新進芸術家育成事業」に新進芸術家として参加

「現代アートの社会実践」というテーマの、以下のアーティスト・キュレーターのセミナーに参加した。

■ 「アルフレッド ジャー 困難/ALFREDO JAAR
-IT IS DIFFICULT」 講演会

【日時】 2014年9月7日(日)14:00~16:00

【会場】 東京藝術大学 奏楽堂

■ 「西野達 逆転/TATZU NISHI-INVERSION」 講演会

【日時】 2014年10月2日(木) 18:00~20:00

【会場】 東京藝術大学美術学部 第一講義室

■ 「アルフレッド ジャー/特別授業」

【日時】 2014年9月8日(月)~9月12日(金) 9:00~
15:00

【会場】 東京藝術大学美術学部 第9講義室

■ 西野達 作品講評

【日時】 2014年10月3日(金)

【会場】 東京藝術大学美術学部 上野校舎

■ “国際フォーラム migratory folly: 現代アートの社会実践No.2”

長谷川祐子「グローバル時代のアート、キュレーション：日本という立場から」

【日時】 2014年10月11日(土) 15:30~17:00

【会場】 東京藝術大学美術学部 第一講義室

■ “国際フォーラム migratory folly: 現代アートの社会実践No.3”

李 龍雨「光州ビエンナーレの20年」

【日時】 2014年10月25日(土) 15:30~17:00

【会場】 東京藝術大学美術学部 第一講義室

■ 李 龍雨 講演

【日時】 2014年10月25日(土)

【会場】 東京都美術館

本事業への参加により、これまでの自分の表現及び、グローバル時代における現代美術の表現について深く考えることとなり、今後は、日本人ならではの視点及び美意識で、「グローバル時代の環境における表現の可能性」を追求していくという、次年度につながる新たな研究課題を見つけることとなった。

③ FOLLY TRIAL/出品

会期：2014年11月13日~11月24日

場所：浅草文化観光センター7F

喜多方の水田環境を利用した作品を映像で発表した。

④ 水田環境における作品制作(その2)

前述の「平成26年度次代の文化を創造する新進芸術家育成事業」への参加により、新

たな視点及び手法で表現することを考え、福島県喜多方市の休耕田を利用した作品制作を開始した。1つ目の水田の作品において、土中に空気噴出装置を埋めたが、土を掘る深さが足りず、また沈めたドラム缶の大きさが小さく、ドラム缶に溜まる空気の量が足りずに、想像していた大きさのあぶくを出すことができなかった。その経験を踏まえ、2つめの作品においては、土により深い穴(約1500mm)を掘り、前回より大きなタンクを沈めることとした。ただ、雪の積もる時期に差し掛かり、実際に水を入れて泡を出す段階までは進まなかったため、26年度中は準備のみ実施した。



休耕田の中に設置したタンクの様子

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計1件)

白井英之、「環境における表現の可能性-瀬戸内国際芸術祭2013を通して」、環境芸術学会第14回大会/研究発表概要集、査読無、2013年、24頁

〔学会発表〕(計1件)

白井英之、「環境における表現の可能性-瀬戸内国際芸術祭2013を通して」、環境芸術学会第14回大会、2013年10月26日~10月27日、西日本工業大学キャンパス(福岡県京都郡)

口頭発表およびパネル発表

〔図書〕(計1件)

著者：環境芸術学会(白井英之 他)

出版社：東方出版

署名：アートプロジェクト・エッジ：拡張する環境芸術のフィールド

発行年：2015年

総ページ数：191頁

〔産業財産権〕

○出願状況(計0件)

名称：

発明者：

権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況（計0件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕

○美術手帖別冊「瀬戸内国際芸術祭 2013 公式ガイドブック」に出品作品掲載、美術出版社、104 頁、2013 年 2 月

○美術手帖別冊「瀬戸内国際芸術祭 2013 公式ガイドブック夏・秋」に出品作品掲載、美術出版社、116 頁、2013 年 7 月

○「瀬戸内国際芸術祭 2013 公式記録集」に出品作品掲載、北川フラム／瀬戸内国際芸術祭実行委員会監修、2014 年 6 月

○2013 年 8 月「四国新聞」に瀬戸内国際芸術祭出品作品にかかる記事掲載

○記録集「folly trial 2014」に水田環境を利用した作品掲載、東京藝術大学発行、2015 年

○臼井英之 Web サイト www.usuiusu.com

6. 研究組織

(1) 研究代表者

臼井 英之 (USUI, Hideyuki)
東京藝術大学・大学院美術研究科・大学院
専門研究員
研究者番号：70644574

(2) 研究分担者

なし
研究者番号：なし

(3) 連携研究者

なし
研究者番号：なし